

# 局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

<b>局名</b>	<b>建設局</b>
-----------	------------

<b>基本計画</b>	柱	街を支える
	大項目	都市基盤・施設の効率的な活用・整備
	取組みの方針	都市基盤・施設の整備と維持管理

担当局 / 総務担当課名	建設局	総務課
連絡先	582 - 2252	

21年度計画

-3-(1)-

<b>施策名</b>	<b>都市基盤・施設の適正な維持管理</b>
------------	------------------------

<b>施策の概要</b>	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	公共の都市基盤・施設の適正な維持管理と維持管理コスト縮減に向けた取組みを推進します。また、老朽化が進む基盤・施設については、対症的な維持管理から予防保全型の維持管理へ転換するなど、アセットマネジメントの導入を進めるとともに、基盤・施設の長寿命化に向けたガイドラインの策定などの仕組みづくりを進めます。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	都市基盤・施設の整備と維持管理

	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)		現状値			平成21年度		目標値	
	<b>施策の成果</b>	主要橋梁の健全化率(健全度ランク 以上の割合)		年度		21	計画		
橋梁長寿命化修繕計画の実施に伴い、目標とする管理手法である予防保全型管理へ移行するため、すでに老朽化が進んでいる橋梁を予防保全が有効な健全度ランク 以上になるように補修補強工事を実施します。健全度ランク 以上の割合が増加することで、予防保全型管理への移行の様子が把握できます。		現状値	76%	実績	76 %	目標値	84%		
				達成度	%				
			年度		計画		年度		
			現状値		実績		目標値		
					達成度	%			
		年度		計画		年度			
		現状値		実績		目標値			
				達成度	%				
<b>コスト</b>	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]				事業費	137,066 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)		
					うち一般財源	133 千円	28,500 千円		

## 局施策に対する担当局の評価

<b>局施策の評価</b>	21年度評価	主な分析理由
	<b>A</b>	これまでも橋梁の補修補強工事を実施してきているところですが、今後予測される維持管理コストの増加や費用集中を平成21年度に策定した橋梁長寿命化修繕計画を実施することにより、今後100年間で約6割のトータルコストの縮減と予算の平準化が可能となっています。
<b>今後の局施策の方向性</b>	平成22年度からは、橋梁長寿命化修繕計画に沿って橋梁の補修補強工事を進めることで適正な維持管理を図ります。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

## 評価担当部署の意見

適切な評価  下記のとおり

目標値の考え方を示すことが必要と考えます。

施策名 都市基盤・施設の適正な維持管理

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
橋梁の長寿命化への計画的な取り組み			137,066 千円	28,500 千円	裁量的経費			ウ
事業費のうち一般財源			133 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	137,066 千円	28,500 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	133 千円	

局施策の  
21年度評価

**A**

【局施策評価】  
A: 大変良い状況にある  
B: 概ね良い状況にある  
C: 概ね良い状況とまでは言えない  
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 ア: 事業の見直しを図ることが可能 イ: 休止・廃止を検討 ウ: 現状のまま進めることが適当 エ: 終了

# 事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

担当局/課	建設局	道路維持課
連絡先	582 - 2274	

基本計画	柱	街を支える
	大項目	都市基盤・施設の効率的な活用・整備
	取組みの方針	都市基盤・施設の整備と維持管理
	主要施策	都市基盤・施設の適正な維持管理

関連計画	
事業期間	平成19年度～
経費区分	裁量の経費

-3-(1)-

事業名	橋梁の長寿命化への計画的な取り組み
-----	-------------------

事業の概要	何(誰)をどのよう状態にしたいのか。	平成19年度から平成21年度にかけて策定した北九州市橋梁長寿命化修繕計画に伴い、今後は主要橋梁(緊急輸送道路上の橋梁や橋長15m以上の橋梁など)に対して予防保全型の維持管理を行っていきませんが、すでに老朽化が進み抜本的な治療が必要な健全度 以上の橋梁について、補修補強工事を実施し、予防が有効な状態である健全度 以上の橋梁を増加させることで市民の安全安心を確保します。							
	その結果、実現を目指す施策名と成果	<table border="1"> <tr> <td>施策名</td> <td>都市基盤・施設の適正な維持管理</td> <td>成果</td> <td>主要橋梁の健全化率(健全度ランク 以上の割合)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	施策名	都市基盤・施設の適正な維持管理	成果	主要橋梁の健全化率(健全度ランク 以上の割合)			
施策名	都市基盤・施設の適正な維持管理	成果	主要橋梁の健全化率(健全度ランク 以上の割合)						

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由		
		現状	橋梁長寿命化修繕計画の策定	リニューアル工事の実施 主要橋梁の健全化率 77%	リニューアル工事の実施 主要橋梁の健全化率 78%	リニューアル工事の実施 主要橋梁の健全化率 81%	リニューアル工事の実施 主要橋梁の健全化率 84%			
	実施状況	成果・活動指標(上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標	
		主要橋梁の健全化率						計画	年度	
		橋梁長寿命化修繕計画の実施に伴い、目標とする管理手法である予防保全型管理へ移行するため、すでに老朽化が進んでいる128橋を予防保全が有効な健全度ランク 以上になるように補修補強工事を実施します。健全度ランク 以上の割合が増加することで、予防保全型管理への移行の様子が把握できます。						実績	内容	
		橋梁長寿命化修繕計画の策定						計画	年度	
	コスト	アセットマネジメントの考え方を取り入れ、予防保全型の維持管理である北九州市橋梁長寿命化修繕計画を策定した。						実績	内容	
								達成度	%	
	単年度計画	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]						事業費	137,066 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度) 28,500 千円
								うち一般財源	133 千円	

【事業の実施結果・進捗状況の確認】	
実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 計画策定は予定通り平成19年度から平成21年度までに行い、平成22年度から計画に基づく補修補強工事を実施しています。

【事業の再検証】			
評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	橋梁の長寿命化工事に計画的に取り組むことで、安全安心の橋梁の提供および維持管理トータルコスト縮減が図られ適正な維持管理が実施されます。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか。または、同じコストでより高い効果を得られないか。	4	本計画に基づく補修補強工事の実施により従来型の維持管理と比較し、今後100年間で約6割のトータルコスト縮減効果があります。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	今後は建設後50年を超える橋梁が急激に増加することから、従来型の維持管理では、維持管理コストの増加や費用集中が予測されますが、本計画によりトータルコストの縮減と予算の平準化が可能となります。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なものか、市の関与をなくすることはできないのか。	4	市が管理する道路橋であり、今後も道路管理者である市が実施主体となるのが適切です。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市内において、建設から50年を経過する橋梁が今後急増し、補修補強が必要な橋梁が大幅に増加することとなります。これら橋梁を適正に維持管理をするためには、本計画に基づき補修補強工事を継続し、点検を継続していくことが適当であると思われます。